

映画監督 パラジャーノフの世界



セルゲイ・パラジャーノフ監督 (1924年1月9日～1990年7月20日)

ソ連グルジア・トビリシ生まれ。アルメニア人。1946年モスクワの全ソ連立映画大学 (VGIK) 監督科に入学。アレクサンドル・ドヴジェンコやイゴリ・サフチェンコ、ミハイル・ロンムなどの名匠の元で映画製作を学ぶ。

1964年に監督した『火の馬』が世界的に高い評価を受ける。リアリズムと逸脱した自由な表現を嫌ったウクライナ映画行政当局と衝突し、1971年の次作『さくろの色』はアルメニアで制作。1974年には同性愛、美術品の不法販売といった罪状で5年間の懲役判決を受ける。この不当な投獄に対して、フェリーニ、ロッセリーニ、ビスコンティといったヨーロッパの映画人が抗議運動を立ち上げ直談判。刑期を1年残した1977年ようやく釈放される。1980年代後半、ベレストロイカの進行により自由な環境で制作された『アシク・ケリブ』は、海外の映画祭で大絶賛を受けるが、同作品が遺作となる。

鑑賞作品 〉

アシク・ケリブ



1988年・グルジアフィルム・71分

監督・原案：セルゲイ・パラジャーノフ、ダヴィット・アバシーゼ、原作：ミハイル・レールモントフ、脚本：ギーヤ・バドリゼ、出演：ユーリー・ムゴヤン、ヴェロニカ・メトニツェ、ソフィコ・チアウレリ

上映後の解説および資料・作品提供
日本ユーラシア協会県連合会事務局長
移川仁さん

アシク・ケリブは貧しいが、才能に恵まれた吟遊詩人。彼は領主の娘マグリ・メヘルと愛し合っており、彼女の父親に結婚の許しをもらいに行く。しかし、富豪の父親は、身分の違う貧乏詩人に嫁がせるなどほめてのほかとさんざん侮辱したあげく、彼を追い出す。アシクは嘆き悲しみ、を立てて帰ることを誓って冒険の旅に出るのだった・・・。

3月8日(日)14:30

国際センター 1階研修室

参加費 500円 (資料代含む)

仙台市青葉区青葉山 TEL022-265-2211

主催 日本ユーラシア協会宮城県連合会 共催 右岸の羊座 問い合わせphone 070-5326-1974

ロシア映画を研究する会「キノエ克蘭 КИНОЭКРАН」では、解説をまじえながら、ロシア映画の面白さに触れる映画会を定期的に開催しています。会員募集中！右岸の羊座まで問い合わせ下さい。